



# 国労西日本

国労西日本本部  
NO. 271

発行責任者 森田 文一  
編集責任者 片岡 有宏

変えよう  
安全を守る  
職場風土に



## 貨物会社2018年度 年末手当回答

### 期待を裏切る「低額回答」に断固抗議する

#### 『基準内賃金の1・7カ月』を回答

貨物会社は11月16日、「2018年度年末手当の支払いに関する申し入れ」（国労闘申第5号）に対する回答として「基準内賃金の1・7カ月分、12月7日支払い」の低額回答を行った。

回答は、この間8期連続の黒字を確保する下で、経営自立計画の最終年度としての経営課題を前面に、災害による減収を社員・家族に転嫁するものでしかない。

従って、低額回答に対し、抗議の取り組みを本社、支社及び現場長などに対する行動をはじめ、社長・関西支社長へ抗議行動を展開しよう。



席上国労本部は、「回答は、好決算を受けても低額回答を続けてきた、この間の期末手当での対応の延長線上の回答であり、企業として社員に対する責任を果たしていないものである」として、  
①自然災害による減収を理由とした、低額回答ありきの姿勢に終始する全く誠意が見られないものではない。  
②昨年度決算は会社発足以来最高益を確保しており、2018年度中間決算でもJR発足後最大級の災害にみまわれながらも、営業利益・

經常利益を確保する下で、社員と家族の厳しい生活実態をまったく顧みないものでしかない。  
③災害時に迂回運輸やトラック・船への代行輸送など、臨時作業に携わる社員の努力を無にし、社員感情を逆撫でするものでしかない。  
④経営に影響を与える数々の根幹問題を先送りし、社員犠牲の経営を続けている経営陣の責任は重大であり、支払う体力が十分あるにも関わらず、要求に応えない経営陣には失望しかない。

一と嚴重に抗議を行った。これに対し会社は、「貴組合の指摘は受け止めるが、会社として最終判断した中身であり、最終回答である」との見解に終始した。

最後に本部は、本日の年末手当の低額回答は、社員と家族の生活実態を全く無視した回答であり、「極めて不満である」と重ねて抗議し、取り扱いについては「持ち帰り検討」とした。

#### （会社回答）

1. 基準額 基準額は、基準内賃金の1・60箇月分とする。なお、災害対応に伴うこれまでの社員の皆さんの労苦に報いるとともに、下半期における一層の奮起を期待して、0・10箇月分を併せて支給する。
2. 支給日 2018年12月7日（金）とする。
3. その他55歳に到達した社員の取扱いについては、従前どおりとする。

### 「西日本豪雨災害」に対するボランティア活動

西日本本部は、10月26日、11月18日に倉敷市真備地区にボランティア活動を延べ19名参加して活動を行った。

7月豪雨で高梁川水系の小田川や高馬川が決壊し、真備町の面積の27%にあたる約1200ヘクタールが浸水。倉敷市真備支所や公民館、学校も水没した。

ボランティア活動は、10月26日は、児童公園において、ガラス、陶器の破片等を取り除く作業を、11月18日は、家屋の解体作業を行った。



10月26日（第3陣）



11月18日（第4陣）

住民には、「家を再建したいが、この年齢では、ローンが組めないのでは家を再建するのは諦めた。」と話す人もいた。現在も毎日150人位のボランティアの人が活動に参加している。今後とも西日本本部は、サポートを続けていきます。

### 三江線代替バス アンケートを実施

11月5日に国労米子地方本部は、三江線が廃止となり約半年が経過した中、代替バスが持続可能な公共交通となるよう、利用者・地域住民の皆さんの要望・意見を集約し、関係機関への要請行動へと繋げて行くため、「三江線・代替交通利用実態調査」を取り組みました。

今回の行動は、①バスに乗り込み、直接利用者へのアンケート調査 ②旧三江線沿線の個人宅への戸別訪問アンケート調査を行いました。参加組合員の感想を報告します。

#### バス減便の懸念

ほとんどの方が通院、買物に利用している。小さい頃から三江線を良く利用していたので廃止になって寂しいと言われていたが、多くの方が三江線は、川向こうだから利用してはなかつたと話されていた。料金については、「鉄道より高いと感じるが、利用者が少ないので赤字になれば存続も難しくなるかもしれない。何とか運行してもらうためには、少し高くても利用するしかないし、ほ

たと話されていた。

たと話されていた。

たと話されていた。

### 2018年度年末手当「低額回答」への抗議と要請

11月16日、会社は、①. 西日本豪雨等の影響により鉄道事業は減収減益となり、下期に向けては不要不急な経費増を避けなければならない。②. 信頼回復に努めるとともに新規顧客の獲得や運賃改定などの施策を確実に実施し、将来に備えて積極的な設備投資や労働力の確保を進め、社員が安心して仕事のやりがいと成長が感じられるよう、「人事制度の改正」実施に向けて取り組む。③. 動力費、線路使用料、フォークリフト燃料等の外的要因によるコスト増や修繕費等費用の増加が懸念され、先行き不透明な状況である。一として「基準内賃金の1.70ヶ月分」とする低額回答を行った。

低額回答は、「業績の還元は手当で」としたこの間の交渉経緯を反故にするもので、経営課題を強調し、災害による減収を社員へ責任転嫁する以外の何ものでもない。

8期連続の経常黒字の中で、2017年度決算では2016年度を上回る最高益を確保し、2期連続で鉄道事業部門の黒字化を社員の努力により達成してきたが、社員と家族の厳しい生活を改善したいとする切実な「声」に応えない貨物会社の姿勢に強く抗議するものである。

2019年4月に実施を予定している「人事制度の見直し」では、社員アンケートの結果を動機に挙げているが、その背景にあるものは欠員の中で8期連続の経常黒字を確保してきたにも関わらず、低賃金に抑えられてきたことへの不満が不公平感として現れたものである。その意味では、今「年末手当」の回答は、「今後の試金石になるもの」と指摘してきた。

この間、蓄えてきた利益剰余金から貨物会社に支払い能力があることは証明されているが、「鉄道事業部門の黒字化継続」と「株式上場も可能な体制づくり」を求めるあまり、効率化や人件費削減を推し進め、社員の生活を軽視する姿勢は、制度見直し後の行末を暗示するものとなっている。

「健全経営」を阻害する真の要因である『構造矛盾』について先送りする姿勢を改め、社員への投資という観点から年末手当の回答について再考することを強く要請するものである。

かの手段はタクシーしかない」「高齢になったので、免許証を返した。普段は、家族にさせてもらうが、今日は都合が悪かったのでバスを利用した。便数が少なく、浜田からの乗り換えも時間がかかった」

現在、江津川本線は、往復で12便ある。今後、今の利用実態で減便に繋がるのではないかと危惧をする面もあり、持続可能な公共交通になるため県や自治体・JRからの支援がますます必要ではないかと感じた。

(米子支部 浅井)

(米子支部 浅井)

(米子支部 浅井)

(米子支部 浅井)

(米子支部 浅井)

(米子支部 浅井)

(米子支部 浅井)

#### 持続可能な公共交通に関わり続けたい

8時50分川本発江津行きバスは乗車12名、高齢者の方多く、買い物や病院などの利用、2便とも交通弱者の方々だ。生活保護の方が言っていた、「町へ出るには列車でもバスでも自分にはこれしかないのだ」の話。聞き取りしたアンケートが、ほんの少しでもバスに乗っていた方々の利便性向上及び持続可能な公共交通になり得るよう関わり続けたいと思った。

(浜田支部 大石)

(浜田支部 大石)

(浜田支部 大石)

(浜田支部 大石)

(浜田支部 大石)

(浜田支部 大石)

(浜田支部 大石)

#### 衰退への一步

免許を持たない人(主婦)は、「出かける用事も調整して一度に事が済むようにやりくりするのが大変」とのこと。「料金的にはいいが朝出かけると帰って来れない。乗り合いタクシーもあるけど、自分の為だけに予約するのも気が引ける」

「三江線が走っていたころは気兼ねなく乗っていたのに...」

「三江線がなくなると外出

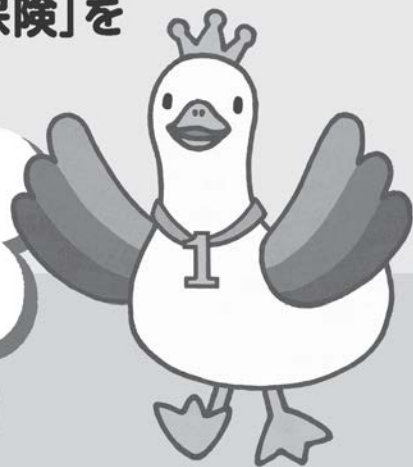
する機会が非常に少なくなつた」など、公共交通が如何に大事であるか身につきまされる思いがした。

JRが出した支援金も底をつけば行政も代替交通の縮小、行く末は廃止せざるを得ないの目に見えていく。地域の活性化どころか、衰退への一步を踏み出したように感じた。

(出雲支部 藤原 豊)

これからの医療の進歩を見据え、「生きるためのがん保険」を新しくします。

NEW/ 生きるためのがん保険 Days 1



アフラックはがん保険契約件数 No.1

NEW/ 女性特有のがんにも手厚い 生きるためのがん保険 Days 1

NEW/ あなたの保障を最新化する 生きるためのがん保険 Days 1 プラス

■募集代理店(アフラックは代理店制度を採用しております) アベニール株式会社 〒105-0004 港区新橋5-15-5 交通ビル3階 TEL.03-3437-6810 FAX.03-3437-6822

(引受保険会社) 「生きる」を創る。 アフラック 東京第二法人営業部 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル19F TEL.03-3344-1429 FAX.03-3344-2658